

授業科目名： 情報システム概論	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2 単位	担当教員名： 羽山徹彩
			担当形態： 単独
科 目	教育職員免許法施行規則第 6 6 条の 6 に定める科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	数理、データ活用及び人工知能に関する科目又は情報機器の操作		
授業のテーマ及び到達目標			
本科目の目的は、情報処理システムを構成する、ハードウェア、ソフトウェア、および通信ネットワークに関する基本的な技術を学習することである。高度な情報化社会に必須のコンピュータに興味を持ち、さらに専門的な情報処理技術を習得できる基礎を築く。 本科目は、経営情報システム工学課程の学習・教育目標の(1-2) (2-1) (2-2)に寄与する。			
授業の概要			
情報処理システムの基本的な構成・機能を解説する。授業はパワーポイントを用いた講義を中心とし、随時提示する演習問題を解くことにより理解を深める。			
授業計画			
1.ハードウェア(第1－7回)			
コンピュータの利用法と基本構成, コンピュータ内のデータ表現, 論理回路の構成法, コンピュータアーキテクチャ, プロセッサの動作, 記憶階層構成			
2.ソフトウェア(第8－12回)			
ソフトウェアの体系, プログラム言語とプログラミング, オペレーティングシステムの構成と役割, 入出力制御法, ファイルとデータベース			
3.通信ネットワーク(第13－15回)			
通信制御方式, インターネットの構成, 情報化社会			
第1回 導入			
第2回 コンピュータの構成と利用			
第3回 データ表現（基礎）			
第4回 データ表現（実践）			
第5回 論理回路（基礎）			
第6回 論理回路（実践）			
第7回 プロセッサ（基礎）			
第8回 プロセッサ（実践）			
第9回 オペレーションシステムの構成と役割			
第10回 ソフトウェアの体系			

第11回 プログラム言語とプログラミング

第12回 ファイルとデータベース

第13回 通信ネットワーク（基礎）

第14回 通信ネットワーク（応用）

第15回 情報化社会と情報セキュリティ

テキスト

特に指定しない

参考書・参考資料等

「図解コンピュータ概論 ハードウェア」橋本洋志、松永俊雄、小澤智、木村幸男共著 オーム社

「図解コンピュータ概論 ソフトウェア・通信ネットワーク」橋本洋志、松永俊雄、小澤智、木村幸男共著 オーム社

学生に対する評価

学期末試験（80％）とレポート・受講状況（20％）により総合的に評価する。

授業科目名： 情報検索論	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 湯川高志、鈴木泉、永森正仁 担当形態： 複数
科 目	教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	数理、データ活用及び人工知能に関する科目又は情報機器の操作		
授業のテーマ及び到達目標			
現代人の生活において情報を利用・活用するための情報スキルの獲得は必須の条件となっている。本授業ではWeb情報・図書・論文(レポート)等の情報検索を起点とし、情報加工、情報伝達、および、情報コミュニケーションについて、その概念と技術、そして、テクノロジーを学ぶ。 本科目は、以下の本学教育目的 2. 4. 6. に寄与する。 2. 技術科学を開発し実践する者の社会に対する責任を自覚し、説明する能力を有した技術者を育成すること 4. 社会の変化に対応し、新しい情報を柔軟に取り入れることができ、生涯を通じて、自己の能力を高めることができる技術者を育成すること 6. 新しい技術科学分野を開拓する創造力を有した技術者及び研究者を育成すること 学習・教育目標 D：理解・思考・表現・対話の基礎である言語・論理力を持つ。			
授業の概要			
関連の情報システム開発および運用に実務経験を有する複数教員の連携により、講義および実際の情報機器の操作を併用して進める。			
授業計画			
第1回：ガイダンス・イントロダクション ～ 学習環境の準備 & u-Japan政策2010 ～ 第2回：インターネット情報検索1 ～ Webで情報検索 & e-Japan戦略2005 ～ 第3回：パソコンの基本操作1 ～ 検索結果の整理 & データマイニング ～ 第4回：レポート作成技術1 ～ レポート作成の基本 & 問題意識の探索 ～ 第5回：インターネット情報検索2 ～ クリティカル・シンキング & リフレクション～ 第6回：レポート作成技術2 ～ Webで情報共有1 & 教育の情報化 ～ 第7回：パソコンの基本操作2 ～ Webで情報共有2 & 学習プロセスの共有 ～ 第8回：図書情報検索1 ～ 図書館の資料 & ウェブアクセシビリティ ～ 第9回：図書情報検索2 ～ 図書・論文資料による情報収集 ～ 第10回：プレゼンテーション技術1 ～ レポートに対する内省 & eポートフォリオ ～ 第11回：プレゼンテーション技術2 ～ 情報伝達における画像情報 & 資料の作成 ～			

第12回：プレゼンテーション技術3 ～ 実践 & 暗黙知から形式知へ～

第13回：情報検索論 ～ ICT & 日本の情報政策 ～

第14回：ディスカッション ～ 成果発表 ～

第15回：総括まとめ ～ 学習を振り返って ～

テキスト

特に使用しない

参考書・参考資料等

- 1) 大学生のための学習マニュアル The Smart Study Guide, Louise Tamblin, 他（原著），植野真臣（監訳），永森正仁，他（各章担当），培風館（2009）
- 2) 長岡技術科学大学 教職課程年報，第4号，湯川高志，永森正仁，他（2018）
- 3) 長岡技術科学大学 教職課程年報，第5号，湯川高志，永森正仁，他（2019）

学生に対する評価

課題演習&中間レポート：60％ 最終レポート&プレゼンテーション資料：40％

本講義の成績評価は、学習のプロセスを重視し、毎回の講義中で説明する課題の達成度で行う。よって、15回の講義全てへの参加を、成績評価を受ける条件とする（このため、16回目の試験はない）。ただし、連絡のあった（事後でも可）病欠・忌引等は考慮する。

授業科目名： 実務訓練	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 8単位	担当形態： 単独
担当教員名：明田川正人、井原郁夫、高橋勉、太田浩之、武田雅敏、上村晴司、南口誠、磯部浩己、宮下幸雄、小野浩司、岩橋政宏、木村宗弘、三浦友史、宮崎敏昌、坪根正、田中久仁彦、圓道知博、斎藤秀俊、竹中克彦、前川博史、石橋隆幸、今久保達郎、河原成元、陸旻皎、細山田得三、高橋修、下村匠、岩崎英治、佐野可寸志、池田隆明、豊田浩史、滝本浩一、政井英司、城所俊一、本多元、高橋祥司、李志東、野村収作、羽山徹彩、江偉華、末松久幸、大塚悟、中川匡弘、小林高臣、山口隆司、小笠原渉、山田昇、中山忠親、伊東淳一、門脇敏、阿部雅二郎、三好孝典、小林泰秀、本間智之、倉橋貴彦、勝身俊之、會田英雄、溝尻瑞枝、韋冬、岡本智一郎、加藤有行、佐々木徹、杉田泰則、鵜沼毅也、佐々木友之、芳賀仁、玉山泰宏、南部功夫、渡部康平、横倉勇希、眞田亜紀子、坂本盛嗣、田中諭、本間剛、高橋由紀子、多賀谷基博、白仁田（稲川）沙代子、西川（多賀谷）雅美、船津麻美、小松俊哉、熊倉俊郎、高橋一義、宮下剛、松田（上米良）曜子、犬飼直之、福元豊、松川寿也、幡本将史、中村文則、木村悟隆、高原美規、霜田靖、佐藤武史、山本麻希、西村泰介、笠井大輔、桑原敬司、藤原郁子、鈴木信貴、中平（田中）勝子、秋元頼孝、白川智弘、西山雄大、菊池崇志、鈴木常生、山崎渉、姫野修司、大沼清、木村哲也、大塚雄市、鈴木正太郎、			
科 目	大学が独自に設定する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等			
授業のテーマ及び到達目標			
実践的・指導的技術者の育成を目的として、これまで学習した工学に関する知識を実際に応用し発展させるため、民間企業、行政機関、海外の大学等で、技術的業務や社会のニーズを意識した一連の発展的課題に取り組む。本科目は、以下のことを目的とする。 (1) 工学に関する実践的・技術者の感覚を養う。 (2) 組織の中で働くことによって技術に対する社会の要請を知り、学問の意義を認識するとともに、自己の創造性発揮の場を模索する。 (3) 社会において学理と技術が総合的に応用される場を体験することにより、自己の能力を展開して練磨する。 (4) 技術に対する問題意識を養い、大学院における基礎研究および開発研究の自立性を高める。 (5) エンジニアリングデザイン能力の向上を目指す。 (6) 社会的・企業的倫理を理解し、実践する。			
授業の概要			
これまでの学習の集大成として、約5ヶ月間実務訓練先の機関において、この科目の主旨を理解した実務訓練責任者（担当の職員）と共に、実務課題の解決に関する実習・訓練を行う。この科目では、学生は単に実務を体験する実習生ではなく、正規社員・職員と同様の業務に就いて、業務の目的や意義			

、自分の責任を理解して実務を履行する。そこには、これまでの学習の成果・知識を結集して、社会の中で自ら新しい実務課題を探究し、組み立て、解決することが含まれている。そして、担当教員が実施状況を綿密に把握できるように、教員・実務訓練責任者・学生の三者面談を必ず行い、学生は訓練の内容について毎月のレポートを提出し、成果を最終報告書として取りまとめるとともに、実務訓練発表会にてその内容について発表を行う。担当教員は、随時、実務訓練先を訪問して、学生の学習状況について確認を行い、実務訓練調査書を作成する。取り扱う内容は、所属分野と関連し、工業の高等学校教員に必要な知識を身につける。

授業計画

詳細な実習内容は実務訓練先によって異なるが、最低限共通的に取り扱う内容について記載する。
また、実務訓練は、8単位（1単位45時間）以上の学修時間を満たしていることを成績評価の前提とする。

4月上旬：セキュリティ教育の実施（学内）

5月下旬：実務訓練シンポジウムの実施（学内）

7月上旬：全学実務訓練ガイダンスの実施（学内）

9月上旬：課程別ガイダンスの実施（学内）

9月から随時：開始前研修の実施（全学および各研究室で実施）

10月上旬：安全教育の実施（実務訓練先）

10月上旬：実務訓練先機関での導入教育（実務訓練先）

10月上旬～2月中旬

：社会基盤工学に関する実践的技術課題の設定（実務訓練先）

：実践的技術課題（測量、土木基礎力学、土木構造設計、土木施工、社会基盤工学の中から選択する）に取り組む（実務訓練先）

：訓練生の学習効果に関する三者（実務訓練責任者、担当教員、学生）打ち合わせ（実務訓練先）

：実践的技術課題の再設定（実務訓練先）

：実務訓練先での報告会の実施（実務訓練先）

2月中旬：最終報告書の作成（実務訓練先）

2月下旬：発表資料と発表原稿の作成（実務訓練先）

3月上旬：実務訓練報告会の実施（学内）

テキスト

実務訓練指導教員及び実務訓練責任者の指示による。

参考書・参考資料等

実務訓練指導教員及び実務訓練責任者の指示による。

大学が作成する「実務訓練の手引き」

学生に対する評価

学生は実務訓練での日々の取り組み状況を記録した実務訓練実施記録簿、実務訓練報告書を毎月担当教員まで送付する。担当教員は、随時、実務訓練先を訪問して、学生の学習状況について確認を行い、実務訓練調査書を作成する。訓練先の実務訓練責任者は実務訓練評価書を提出する。以上の書類と実務訓練後に行う実務訓練発表会での発表内容を総合的に判断して可否を判定する。

授業科目名： 教育原理	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2 単位	担当教員名： 伊藤 敦美
			担当形態： 単独
科 目	教育の基礎的理解に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想		
授業の到達目標及びテーマ			
1. 教育の基本的概念を身に付け、教育を成り立たせる諸要因と相互の関係を理解する。			
2. 教育の歴史に関する基礎的知識を身に付け、それらと多様な教育の理念との関わりや過去から現代にいたるまでの教育及び学校の変遷を理解する。			
3. 教育に関する様々な思想、それらと多様な教育の理念や実際の教育及び学校との関わりを理解する。			
授業の概要			
この授業では、教育が歴史的にどのように発展し、現代に至ったのかを跡付けていくことによって、教育の基本概念とはなにか、教育の目標がどこに求められたのか、教育の理念にはどのようなものがあり、教育の歴史や思想において、それらがどのように現れてきたのかについて学ぶ。また、近代教育の成立に寄与した代表的な人物の教育思想、日本の近代学校教育制度成立期の教育思想、第2次大戦後の教育思想や教育理念を学ぶことを通して「不易」といわれる変わらない教育の本質と次代の要請による教育の在り方いわゆる教育の「流行」を捉える。			
授業計画			
第1回：教育とは何か			
第2回：教育の基本構造（1）陶冶・教化・形成			
第3回：教育の基本構造（2）転移概念と学力			
第4回：教育の思想（1）ロック・コメニウス			
第5回：教育の思想（2）ルソー・ペスタロッチ・フレーベル			
第6回：教育の思想（3）ヘルバルト・デューイ			
第7回：西洋における学校教育の歴史（1）古代～中世			
第8回：西洋における学校教育の歴史（2）近世～現代			
第9回：公教育体制の成立			
第10回：日本の教育の歴史（1）明治・大正			
第11回：日本の教育の歴史（2）戦前・戦中			
第12回：日本の教育の歴史（3）戦後			
第13回：教育の目的・目標			

第14回：学校の教育目標：学校教育の目標と学校の教育目標

第15回：現代社会の教育課題

定期試験

テキスト

新カリキュラム対応教育・保育の基礎を学ぶ—子どもの育ちを支える理論と実践—（岩崎保之編著 国際文献社）

参考書・参考資料等

中学校学習指導要領（平成29年3月告示 文部科学省）

高等学校学習指導要領（平成30年告示 文部科学省）

デューイ実験学校におけるカリキュラムと学校運営（伊藤敦美 考古堂書店）

学校と社会（ジョン・デューイ著・市村直久訳 講談社学術文庫）

民主主義と教育（ジョン・デューイ著・河村望訳 人間の科学社）

学生に対する評価

学習理解の確認（テスト）60%、授業で課す課題とレポート30%、授業への取組（授業中の発言や態度）10%で評価する。

授業科目名： 教職論	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 伊藤 敦美
			担当形態： 単独
科 目	教育の基礎的理解に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教職の意義及び教員の役割・職務内容（チーム学校運営への対応を含む。）		
授業の到達目標及びテーマ			
1. 日本における今日の学校教育や教職の社会的意義を理解する。			
2. 教育の動向を踏まえ、今日の教員に求められる役割や資質能力を理解する。			
3. 教員の職務内容の全体像や教員に課せられる服務上・身分上の義務を理解する。			
4. 校内の教職員や外部の人材と連携・分担し、チームとして諸課題に対応する重要性を理解する。			
授業の概要			
現代の学校教育をめぐる動きは激しく、教職の重要性は高まっている。この授業では教職の意義、教員の役割・資質能力・職務内容等を取り上げる。また、教職への意欲を高めることや、教職の適性を判断し、進路選択に資する教職の在り方を理解するための講義や議論等を行う。			
授業計画			
第1回：公教育の目的と教員の存在意義			
第2回：子どもの生活と社会・家庭・学校			
第3回：教職の職業的特徴			
第4回：教員の養成と採用			
第5回：教職観の変遷と今日の教員に求められる役割			
第6回：今日の教員に求められる基礎的な資質能力			
第7回：教員の職務内容の全体像			
第8回：学習指導の意義と役割			
第9回：学習指導の原理と方法			
第10回：学習指導の過程と評価			
第11回：生徒指導の意義と指導原理			
第12回：生徒指導とキャリア教育			
第13回：学校経営と学級経営			
第14回：教員の服務上・身分上の義務及び身分保障（研修、服務、身分保障）			
第15回：チーム学校運営：校内の教職員及び外部の専門家との連携・分担			

定期試験
テキスト 新カリキュラム対応教育・保育の基礎を学ぶ—子どもの育ちを支える理論と実践—（岩崎保之編著 国際文献社）
参考書・参考資料等 教職入門（吉田辰雄・大森正編著 図書文化社） 中学校学習指導要領（平成 29 年 3 月告示 文部科学省） 高等学校学習指導要領（平成 30 年告示 文部科学省） 中学校学習指導要領解説 総則編（平成 29 年 7 月 文部科学省） 高等学校学習指導要領解説 総則編（平成 30 年 文部科学省）
学生に対する評価 学習理解の確認（テスト）60%、授業で課す課題とレポート30%、授業への取組（授業中の発言や態度）10%で評価する。

授業科目名： 教育法規・政策論		教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 村田 直樹
				担当形態： 単独
科 目		教育の基礎的理解に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等		教育に関する社会的、制度的又は経営的事項（学校との連携及び学 校安全への対応を含む。）		
授業の到達目標及びテーマ				
教育の基礎理論として、学校教育を中心に教育制度や教育政策の変遷及び動向について学ぶ ことによって、その背景にある社会の変化を理解するとともに、公教育制度の理念や教育制度 をめぐる今日的課題（学校と地域との連携や学校安全への対応を含む）についての理解を深め る。また、教育制度を支える法令についての基礎的な知識を身に付ける。				
授業の概要				
授業は大きく分けて「教育政策」と「教育法規」のパートで構成される。教育政策では教育 制度・政策の歴史的変遷を概観した後、「教育の機会均等」「教育の質保証」といった公教育 の原理・理念についての理解を深めるとともに、「学校・家庭・地域の連携」「アカウンタビ リティーの確保」「学校安全への対応」といった政策課題を取り上げ、近年の動向や具体的 な対応方策等について学ぶ。教育法規では公教育制度を構成する教育関係法規として、教育基本 法、学校教育法、地方教育行政の組織及び運営に関する法律、教育公務員特例法等を取り上げ 、規定の背景にある理念・原理、近年の改正経緯や具体的な規定の解釈について学ぶ。				
授業計画				
第1回：教育行政の構造と教育政策				
国の行政制度における教育行政の位置づけを理解するとともに、特に初等中等教育を中心に教育行 政の理念と仕組みについて学ぶ。				
第2回：教育制度・政策の変遷				
戦前、戦後の公教育制度の変遷を概観することによって、子どもを取り巻く社会・経済状況の変化 や戦後公教育制度の原理・理念・意義等について理解するとともに、教育改革の動向について学ぶ。				
第3回：公教育制度の理念と教育政策				
公教育の原理・理念を実現するための行政の役割と政策遂行のための様々なツールについて学ぶ。				
第4回：我が国の教育政策（1）				
①教育の機会均等の実現、②教育の質保証といった課題について、法令上の基本的な規定や具体的 な政策（予算を含む）について考察する。				
第5回：我が国の教育政策（2）				
③学校・家庭・地域社会の連携、④アカウンタビリティの確保といった課題に係る法令				

上の基本的な規定や具体的な政策（予算を含む）について考察する。

第6回：我が国の教育政策（3）

⑤学校安全への対応に係る法令上の基本的な規定や具体的な政策について学ぶとともに、危機管理や事故対応を含む学校安全の必要性及び具体的な取組について考察する。

第7回：教育行政の今日的課題（1）

「学校選択」と「父母等の学校運営への参画」という教育政策の今日的課題について、その背景や米英の先行事例を紹介するとともに、我が国の取組について考察する。

第8回：教育行政の今日的課題（2）

「学校評価」と「学力テスト」を取り上げ、その背景や米英の先行事例を紹介するとともに、我が国の取組について考察する。

第9回：教育法規（序論）

教育法規を学ぶ上で必要となる基礎知識（法令用語の使い方、法令の階層性、特別法及び後法優先のルール等）について学ぶ。

第10回：教育基本法

教育基本法の制定経緯、教育基本法の全部改正の背景について学ぶとともに、新旧教育基本法の比較を交えながら、各条文の基本的な意味を理解する。

第11回：学校教育法（1）

学校教育法について、その特色、幼児期から青年期の教育及び特別支援教育を網羅した学校体系を把握するとともに、条文を参照しながら、学校、義務教育、学校職員の職務と権限、教育課程の法制、教科書とその使用義務等について学ぶ。

第12回：学校教育法（2）

学校教育法及び児童の権利条約の条文を参照しながら、特に発達段階に応じた懲戒（出席停止と体罰の禁止）を中心に児童生徒の在籍関係について、また学校評価と情報提供の意義について、学ぶ。

第13回：地方教育行政の組織と運営

「教育委員会」制度について、行政委員会制度の考え方や「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」の制定経緯について理解するとともに、教育委員会の組織と権限、教育委員会と学校管理との関係、文部科学大臣と教育委員会の関係等について、近年の法改正や条文に触れながら学ぶ。

第14回：教職員の身分とその管理

教員の養成、教員免許の更新制、教員の任用、給与・勤務条件、研修等について、関係法令の条文を参照しながら学ぶ。

第15回：教育行政の今日的課題：（3）学生によるプレゼンテーション

授業で取り上げた教育政策の今日的課題（学校選択、父母等の学校運営への参画、学校評価、学力テスト等）を選んで、学生が作成した小論文をもとに、その内容を発表させ、意見交換を行う。

最終試験

テキスト

授業の際に講義用プリントと関係法令を配布する。

参考書・参考資料等

「新訂第5版 やさしい教育法規の読み方」(菱村幸彦・著、教育開発研究所) 2015

「教育行政と学校経営 新訂」(勝野正章、村上祐介・著、放送大学教育振興会) 2020

「学校と法 三訂版」(坂田 仰・著、放送大学教育振興会)2020

学生に対する評価

小論文及びその発表 (30%)

最終試験 (40%)

学習態度 (30%)

小論文については、教育行政の今日的課題で取りあげた課題の中から学生に課題を選択させることとし、政策課題に係る情報を収集・分析して課題を多角的に捉えた上で、自らの考えを論理的に展開できているかどうかという視点で評価する。

最終試験については、教育法規を中心に授業で取り上げた内容を確実に理解できているかどうかという視点で測定・評価する。

総授業時間の三分の一を超えて欠席した者には単位を認定しない。

授業科目名： 教育心理学		教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2 単位	担当教員名： 伏見陽児
				担当形態： 単独
科 目		教育の基礎的理解に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等		幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程		
授業のテーマ及び到達目標				
学習者の発達の様相を踏まえた上で、学習を支える指導についての基本的な考え方を理解する。 ・人間の心身の発達に関わる内的要因と外的要因の相互作用の重要性、発達理解の意義を理解している。 ・発達の各時期の特徴について、その具体的な内容を理解している。 ・学習されるべき知識の在り様について、指導や学習形態と関連づけて理解している。 ・個に応じた学習指導および学習評価について、その基礎となる考え方を理解している。 ・学習を支える動機づけ・集団づくり・教師生徒関係の在り方を理解している。				
授業の概要				
生徒の心身の発達や学習の状況に関する基本的な知識を持つことは重要である。本講義では、発達や学習に関わる内容について学び、教育活動における基礎的な力量を養う。教育場面の具体例を豊富にとりあげるとともに、実際に課題を行うなどの作業を導入して学習の活性化を図る。				
授業計画				
第1回：教育心理学のねらい～発達とは、学習とは～				
第2回：発達の過程～新生児期から老年期まで、発達加速現象・発達減速現象～				
第3回：発達と環境～アヴェロン野生児の成長から～				
第4回：社会性の発達と教育～構成的グループエンカウンターと集団づくり～				
第5回：学習と動機づけ～外発的動機・内発的動機、原因帰属理論、学習性無力感～				
第6回：学習者特性と指導法～適性処遇交互作用(ATI)～				
第7回：教室での教師と生徒の関係～教師期待効果(ピグマリオン効果)～				
第8回：問題解決と知識～個別的知識の学習と法則的知識の学習、例外例の役割～				
第9回：学習者が既得する誤った知識とその修正～誤概念・素朴概念・ルバー～				
第10回：学級集団と学習形態～協同学習～				
第11回：評価～その目的と方法～				
第12回：教授学習プロセスとしての「検証」法～生兵法実践主義と学習の活性化～				
第13回：科学的知識と情操～科学的知識の学習による情操の育成～				
第14回：教師の科学教育観と生徒の反応～正答主義からの脱却～				
第15回：あらためて人間の発達と教育を考える～盲ろう二重障児の教育から～				

定期試験
テキスト
使用しない。毎回プリントを配付する。ビデオも適宜用いる。
参考書・参考資料等
基礎からまなぶ教育心理学（小山編著，サイエンス社） あらかじめ購入しておく必要はない。
学生に対する評価
毎回の授業の最後に提出する小レポート（50％），定期試験（50％）によって評価する。小レポートは，授業内容に関し自らの考えに基づき述べられること。定期試験は，授業で扱った事項が，自らの言葉により，具体例に基づいてまとめられること。定期試験は第15回の授業の次の回に行う。

授業科目名： 特別支援教育論		教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 1 単位	担当教員名： 長澤 正樹
				担当形態： 単独
科 目		教育の基礎的理解に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等		特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒に対する理解		
授業の到達目標及びテーマ				
特別支援教育の理念と制度、特別な教育の場を理解し、特別支援教育の実践に必要な知識を習得すること。さらには、将来のインクルーシブ教育システムの構築に必要な教員の資質と校内体制について理解すること。なお、特別支援教育の関連領域として、虐待や非行などの教育問題を含める。				
授業の概要				
特別支援教育とインクルーシブ教育システムの制度や内容を比較し、これからの教育の在り方を説明する。次に、発達障害や虐待など、多様な特性について説明する。さらに、通常の学級におけるユニバーサルな対応と段階的な対応、合理的配慮を説明し、個別計画作成のための知識とスキルを学べるようにする。そして、通級指導教室から特別支援学校までの特別な場での教育を解説する。 授業構成は、はじめに到達目標を示し、解説、最後に自己評価させる。そして、発展課題を提示し、次回までの提出課題とする。				
授業計画				
第1回：特別支援教育とインクルーシブ教育システムの制度と内容				
第2回：発達障害等多様な実態とその特性・特性への対応				
第3回：身体障害と知的障害の特性と特別支援学校の教育				
第4回：通常の学級における特別支援教育の在り方				
第5回：学習のユニバーサルデザインと合理的配慮				
第6回：特別な対応、段階的な対応、通級指導教室・特別支援学級				
第7回：個別の教育支援計画・個別の指導計画・校内システム・地域連携				
第8回：虐待や貧困、外国籍の子どもへの対応				
定期試験				
テキスト				
授業で使用するパワーポイントの資料は事前に配付する。				
参考書・参考資料等				
改訂版「はじめての特別支援教育」柘殖雅義、渡部匡隆、二宮信一、納富恵子編、有斐閣				
学生に対する評価				

授業での学習姿勢10%、課題30%。定期試験60%

授業科目名： 教育課程論	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 池野 正晴
			担当形態： 単独
科 目	教育の基礎的理解に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教育課程の意義及び編成の方法（カリキュラム・マネジメントを含む。）		
授業のテーマ及び到達目標			
[授業のテーマ]			
教育課程（カリキュラム）の意味、及び教育課程の編成原理・編成手順、学習指導要領との関係、学習指導要領の変遷、カリキュラム・マネジメントの考え方等について理解する。			
[到達目標]			
学習指導要領を基準として各学校において編成される教育課程について、その意義や編成の方法を理解するとともに、各学校の実情に合わせてカリキュラム・マネジメントを行うことの意義を理解している。			
○学校において教育課程が有する役割・機能・意義			
○教育課程編成の基本原則及び学校の教育実践に即した教育課程編成の方法			
○教科・領域・学年をまたいでのカリキュラムの把握及び学校の教育課程全体をマネジメントすることの意義			
授業の概要			
新しい時代を迎え、資質・能力ベースのカリキュラムを正面に据えて初等中等教育の改革が進められている。これにより、学校におけるカリキュラムは大きく変化してきている。今後は、各学校における教育課程の編成及びカリキュラム・マネジメントが問われてくる。			
本講では、学校現場における教員経験を活かしながら、学習指導要領を基準に各学校において編成されるカリキュラムに焦点をあて、教育課程（カリキュラム）の意味・種類、教育課程の編成原理、編成手順、学習指導要領との関係、学習指導要領の変遷、カリキュラム・マネジメントの考え方・進め方等について考察を進めていくものである。			
それらの意味を、教育の根本原理やその実践の方法、教師の仕事、教育諸現象ともつなげながら、できるだけ具体的な事例に即してともに考えていくものとする。受講者によるプレゼンテーション（受講者の資質・能力の育成にも貢献）及び対話形式（ともに考えること）を重視する。			
授業計画			
第1回：「ある実践」からカリキュラムのあり方・可能性を考える。			
第2回：「教育課程論」の概要（10問クイズを通して）、求められる資質・能力とアクティブ・ラーニング			

第3回：いま、なぜ「教育課程」か、その定義とPDCAサイクル
 第4回：新学習指導要領「総則」の読み方、カリキュラム・マネジメントの考え方
 第5回：学習指導要領の変遷Ⅰ－経験カリキュラム－
 第6回：学習指導要領の変遷Ⅱ－学問中心カリキュラム－
 第7回：学習指導要領の変遷Ⅲ－人間性中心カリキュラム－
 第8回：内容選択の基準と編成の原理
 第9回：子どもの発達と教科書
 第10回：カリキュラムを支える教育環境とカリキュラム評価の進め方
 第11回：カリキュラムの履修スタイル
 第12回：教科のカリキュラム
 第13回：教科外のカリキュラム
 第14回：近年のカリキュラム改革の動向
 第15回：諸外国の「カリキュラム」改革
 定期試験

テキスト

- 田中耕治編著『よくわかる教育課程〔改訂版〕』，ミネルヴァ書房，2018年

参考書・参考資料等

- 文科省『高等学校学習指導要領解説・総則編』，東洋館，2019年
- 文科省『高等学校学習指導要領』，東山書房，2018年

※その他、授業中に適宜資料を配付する。

学生に対する評価

- プレゼン資料の作成，及びそのプレゼンの内容全体 40%
- 期末テスト（筆記試験，レポート，まとめのプレゼン）40%
- 自主コメント，ミニコメントの記入等 20%

授業科目名： 道徳指導法	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：中野啓明 担当形態：単独
科 目	道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	道徳の理論及び指導法		
授業のテーマ及び到達目標 1．道徳の意義や原理等を踏まえ、学習指導要領における道徳教育及び「特別の教科 道徳」（道徳科）に関する目標・内容・方法・評価について理解する。 2．道徳教育と道徳授業に関する諸理論と指導方法を理解し、道徳科の授業に関する基礎的な指導力を習得する。			
授業の概要 道徳の意義や原理等を踏まえ、学習指導要領における目標・内容・方法・評価をもとに、道徳教育と道徳授業の理論と実践を概説する。これらの学習内容をもとに、後半では道徳科の学習指導案を作成し、模擬授業を行うことをとおして、実践的な指導力の習得を目指す。			
授業計画 第1回： 道徳・道徳教育とは何か 第2回： 全面主義道徳 第3回： 道徳教育の目標構造 第4回： 「特別の教科 道徳」（道徳科）の目標・内容・方法・評価 第5回： 道徳教育の全体計画と道徳科の年間指導計画 第6回： 道徳授業の理論と実践① ー道徳性の発達段階論ー 第7回： 道徳授業の理論と実践② ーSST理論に基づいた役割演技ー 第8回： 道徳授業の理論と実践③ ー価値明確化理論ー 第9回： 道徳授業の理論と実践④ ーケアリング論ー 第10回：道徳授業の課題ー道徳科における教材、発問、指示の検討ー 第11回：道徳科学習指導案の作成① ー指導案の構想ー 第12回：道徳科学習指導案の作成② ーグループによる指導案の検討ー 第13回：模擬授業① ー模擬授業の実施と検討 第1回ー 第14回：模擬授業② ー模擬授業の実施と検討 第2回ー 第15回：道徳形成の課題 定期試験			
テキスト 貝塚茂樹・関根明伸編著『道徳教育を学ぶための重要項目100』（教育出版）			

『中学校学習指導要領解説 道徳編』（文部科学省）
参考書・参考資料等 小柳正司編著『道徳教育の基礎と応用－生き生きと学ぶ道徳の教育－』（あいり出版）
学生に対する評価 定期試験70%、模擬授業20%、学習態度10%の比率で評価する。

授業科目名：総合的な学習の時間指導法	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 1 単位	担当教員名： 伊藤 敦美 担当形態： 単独
科 目	道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	総合的な学習の時間の指導法		
授業の到達目標及びテーマ 1．総合的な学習の時間の意義や、各学校において目標及び内容を定める際の考え方を理解する。 2．総合的な学習の時間の指導計画作成の考え方を理解し、その実現のために必要な基礎的な能力を身に付ける。 3．総合的な学習の時間の評価の考え方及び実践上の留意点を理解する。			
授業の概要 総合的な学習の時間は、探究的な見方・考え方を働かせ、横断的・総合的な学習を行うことを通して、よりよく課題を解決し、自己の生き方を考えていくための資質・能力の育成を目指す時間である。各教科等で育まれる見方・考え方を総合的に活用して、広範な事象を多様な角度から俯瞰して捉え、実社会・実生活の課題を探究する学びを実現するために、この授業では、総合的な学習の時間の意義と目標及び内容の定め方、指導計画の作成、指導と評価について講義する。			
授業計画 第1回：総合的な学習の時間の意義と教育課程における役割 第2回：学習指導要領における「総合的な学習の時間」の目標及び各学校における目標・内容 第3回：総合的な学習の時間の指導計画の作成（1）年間指導計画 第4回：総合的な学習の時間の指導計画の作成（2）単元計画 第5回：総合的な学習の時間の事例（1）複数学年による事例 第6回：総合的な学習の時間の事例（2）単一学年による事例 第7回：探究的な学習の過程及びその実現 第8回：総合的な学習の時間の評価 定期試験は実施しない			
テキスト 新カリキュラム対応教育・保育の基礎を学ぶ—子どもの育ちを支える理論と実践—（岩崎保之編著 国際文献社）			

中学校学習指導要領（平成 29 年 3 月告示 文部科学省） 高等学校学習指導要領（平成 30 年告示、文部科学省） 中学校学習指導要領解説 総合的な学習の時間編（平成29年7月 文部科学省） 高等学校学習指導要領解説 総合的な学習の時間編（平成30年 文部科学省）
参考書・参考資料等 デューイ・スクール（小柳正司監訳、あいり出版）
学生に対する評価 レポート試験（60%）、授業で課す課題（30%）、授業への取組（授業中の発言や態度）（10%）で評価する。

授業科目名： 特別活動論	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 1 単位	担当教員名： 池野 正晴
			担当形態： 単独
科 目	道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	特別活動の指導法		
授業のテーマ及び到達目標 〔授業のテーマ〕 学校教育における特別活動の意義とその位置づけについて認識を深め、生徒の人間形成に ましい特別活動の展開に向けての実践的指導力を養成する。また、特別活動実施上の課題に 考察し、理解を深めることができるようにする。 〔到達目標〕 学校教育全体における特別活動の意義を理解し、各教科等との往還的な関連、組織的な対 別活動の特質を踏まえた指導に必要な知識や素養を身に付けている。 ① 日本の学校教育における特別活動の意義と役割を理解する。 ② 現在の特別活動の実施形態の基礎的事項について理解する。 ③ 特別活動の本質的な部分について、自分なりの考えをもつことができる。 ④ 自らの視点を通して、今後の特別活動のあり方に関するアイディアを創造することが			
授業の概要 特別活動のねらい、特別活動の内容（ホームルーム活動、生徒会活動、学校行事）、特別活 動実施上の課題等々について考察する。特に、特別活動の中軸としてのホームルーム活動の指 導については、教育の今日的課題と関連させながら考察を進め、実践的指導力を身につけてい けるようにする。			
授業計画 第1回：特別活動論・そのプロローグー概要をクイズ形式でつかむー 「心に残る学校生活と特別活動」を考える一体験としての特別活動ー 第2回：「特別活動の目標」，「ホームルーム活動」について考える 第3回：「生徒会活動」，「学校行事」，「部活動」について考える 第4回：「特別活動の今日的課題」について考える 第5回：「『総合的な探究の時間』，教科指導，道徳教育と特別活動との関連」について考える 第6回：「学級・学校集団の理論」について考える 第7回：「特別活動の歴史」について考える 第8回：特別活動論・そのエピローグー学校生活の律動化・授業の活性化の起点としての特別活動ー			

定期試験

テキスト

- | |
|--|
| (1) 高旗・倉田編著『新しい特別活動指導論』（第2版），ミネルヴァ書房，2011年 |
|--|

参考書・参考資料等

- | |
|--|
| <ul style="list-style-type: none"> ○ 文科省『高等学校学習指導要領解説・特別活動編』，東京書籍，2019年 ○ 文科省『高等学校学習指導要領』，東山書房，2018年 |
|--|

※その他，授業中に適宜資料を配付する。

学生に対する評価

- | | |
|-----------------------------|-----|
| ○ プレゼン資料の作成，及びそのプレゼンの内容全体 | 40% |
| ○ 期末テスト（筆記試験，レポート，まとめのプレゼン） | 40% |
| ○ 自主コメント，ミニコメントの記入等 | 20% |

授業科目名： 教育工学・方法論（ 情報通信技術の活用 を含む。）	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 湯川 高志、中野 啓明 担当形態： オムニバス
科 目	道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等 に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教育の方法及び技術 情報通信技術を活用した教育の理論及び方法		
授業の到達目標及びテーマ			
<授業目的> これからの社会の担う人材に求められる資質・能力を育成するために必要な，教育の方法，教育の技術，情報技術（機器・サービス・教材）の活用に関する基礎的な知識・技能を身につける.			
<達成目標> ・これからの社会を担う人材に求められる資質・能力を育成するために必要な教育の方法を理解している. － 教育方法の基礎的理論と実践を理解している. － これからの社会を担う人材に求められる資質・能力がどのようなものであるかを理解している. － これらの社会を担うための資質・能力を持った人材を育成するための教育方法のあり方（主体的学び・答えが必ずしもひとつではない問題解決に基づく学び等）を理解している. － 授業を構成する基礎的な要件を理解している. － 学習評価の基礎的な考えを理解している. ・教育の目的に適した指導技術を理解し，身につけている. － 話法・板書など，授業を行なう上で基礎的な技術を身につけている. － 基礎的な学習指導理論を踏まえて，目標・内容，教材，授業展開，学習形態，評価基準等の視点を含めた学習指導案を作成することができる. ・情報技術を活用した効果的な授業や情報活用能力の育成に視野に入れた適切な教材の作成・活用に関する基礎的な能力を身につけている. － 情報技術を活用して，学習者に主体的かつ協調的に学ばせるなど，効果的な授業の指導計画やそれに対応した教材を作成することができる. － 学習者の情報活用能力（情報モラルを含む）を育成するための指導法を理解している.			

授業の概要

これからの社会の担う人材に求められる資質・能力とはどのようなものから説き起こし、それらを育成するための教育方法であるアクティブラーニング、プロブレムベースラーニング、反転授業などについて講述し、それらに対応した学習効果の評価方法についても解説する。それらを踏まえた学習指導案の構成とインストラクショナルデザインについて解説する。さらに、情報通信技術を効果的に活用した学習指導および生徒の情報活用能力を育成するための指導法に関する知識として、情報技術を用いた教材、情報機器、情報サービスについて概観するとともに、eラーニングの活用について講述する。

授業計画

第1回：教育方法の基礎と授業の基礎的な要件（担当：中野 啓明）

第2回：授業を構成する基礎的な要件（担当：中野 啓明）

第3回：発問・指示、板書、及び情報機器活用の基礎（担当：中野 啓明）

第4回：学習指導案作成の基礎（担当：中野 啓明）

第5回：授業の評価の実際（担当：中野 啓明）

第6回：これからの社会を担う人材に必要な資質・能力（4つのC）（担当：湯川 高志）

第7回：これからの社会を担う人材に求められる資質・能力を育成するための教育方法（1）アクティブラーニングと反転授業（担当：湯川 高志）

第8回：これからの社会を担う人材に求められる資質・能力を育成するための教育方法（2）プロブレムベースラーニング（PBL）（担当：湯川 高志）

第9回：プログラミング教育と情報モラル教育の指導法（担当：湯川 高志）

第10回：情報通信技術の授業での活用（1）情報技術を活用した教材、授業で活用できる情報機器（担当：湯川 高志）

第11回：情報通信技術の授業での活用（2）授業で活用できるネットワーク・サービス（担当：湯川 高志）

第12回：eラーニングの活用（1）eラーニングの様々な形態、eラーニング教材の制作手順（担当：湯川 高志）

第13回：eラーニングの活用（2）学習管理システム（Learning Management System, LMS）（担当：湯川 高志）

第14回：ラーニングアナリティクス（担当：湯川 高志）

第15回：情報セキュリティ（担当：湯川 高志）

定期試験

テキスト

市坪誠ほか『授業力アップ アクティブラーニング』，実教出版，2016年
 岩崎保之編著『教育・保育の基礎を学ぶ』，国際文献社，2017年

参考書・参考資料等
・ 佐藤学『教育の方法』，左右社，2010年
・ 田中耕治他『新しい時代の教育方法』，有斐閣，2012年
・ 水越敏行他『これからの教育とメディアの教育』，図書文化，2005年
学生に対する評価
試験（50%）と授業中に課すレポートやグループワーク（50%）で評価する.

授業科目名： 生徒・進路指導論		教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：伊藤敦美、田村和弘 担当形態：オムニバス
科 目		道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等		生徒指導の理論及び方法 進路指導及びキャリア教育の理論および方法		
授業の到達目標及びテーマ				
1．生徒指導の意義、教育課程における生徒指導の位置づけと重要性、集団指導・個別指導の方法原理、生徒指導体制の基本的な考え方を理解する。				
2．すべての児童生徒を対象とした学級・学年・学校における生徒指導の進め方を理解する。				
3．児童生徒の抱える主な生徒指導上の課題の様態及び定義、外部の専門家や関係機関等との校内外の連携を含めた対応の在り方を理解する。				
4．進路指導・キャリア教育の意義、教育課程における進路指導・キャリア教育の位置づけと指導の在り方、指導体制及び家庭や関係機関等との連携の在り方を理解する。				
授業の概要				
生徒指導は、学習指導とならぶ重要な教育活動であり、教育活動全体を通じて行われる。この授業では、生徒指導の意義や教育課程における生徒指導の位置づけ、方法原理やその指導体制と進め方、児童生徒の抱える生徒指導上の諸課題の様態及び他の教職員や関係機関と連携しながら組織的に生徒指導を進めていくために必要な知識や技能等について取り上げる。				
授業計画				
第1回：教育課程における生徒指導の位置づけ及び各教科・道徳教育・総合的な学習の時間・特別活動における生徒指導の意義と重要性（伊藤敦美）				
第2回：集団指導・個別指導の方法原理及び生徒指導体制と教育相談体制の基礎的な考え方と違い（伊藤敦美）				
第3回：学級担任、教科担任その他の校務分掌上の役割と学校の指導方針及び年間指導計画に基づいた組織的な生徒指導の取組の在り方（伊藤敦美）				
第4回：生徒指導上の課題の定義及び対応の視点（1）：いじめ（伊藤敦美）				
第5回：生徒指導上の課題の定義及び対応の視点（2）：不登校・暴力行為（伊藤敦美）				
第6回：生徒指導に関する法制度：校則・懲戒（停学及び退学を含む）・体罰等（伊藤敦美）				
第7回：今日的な生徒指導上の課題及び関係機関との連携：インターネット、児童虐待（伊藤敦美）				
第8回：児童生徒全体への生徒指導の実践（1）基礎的な生活習慣の確立・規範意識の醸成（田村和弘）				
第9回：児童生徒全体への生徒指導の実践（2）自己存在感を育む場や機会の設定（田村和弘）				

第10回：教育課程における進路指導・キャリア教育の位置づけ及び学校の教育活動全体を通じたキャリア教育の視点と指導の在り方（伊藤敦美）

第11回：職場体験活動を核としたカリキュラム・マネジメント（伊藤敦美）

第12回：ガイダンス機能を生かした進路指導・キャリア教育の意義及び留意点（伊藤敦美）

第13回：進路指導・キャリア教育の指導体制及び家庭や関係機関との連携（田村和弘）

第14回：キャリア形成の視点に立った自己評価の意義及びポートフォリオを活用した実践（田村和弘）

第15回：キャリア・カウンセリングの基礎的な考え方と実践（田村和弘）

定期試験

テキスト

新カリキュラム対応教育・保育の基礎を学ぶ—子どもの育ちを支える理論と実践—（岩崎保之編著 国際文献社）

生徒指導提要（文部科学省）

参考書・参考資料等

中学校学習指導要領（平成29年3月告示 文部科学省）

高等学校学習指導要領（平成30年告示 文部科学省）

「いじめ問題」から授業・学校改革を考える（斎藤勉著 明治図書）

生きる力を育む生徒指導（宮下一博・河野莊子編著 北樹出版）

キャリア教育基礎論（藤田晃之 実業之日本社）

進路指導・キャリア教育の理論と実践（吉田辰夫・篠翰著 日本文化科学社）

学生に対する評価

学習理解の確認（テスト）60%、授業で課す課題とレポート30%、授業への取組（授業中の発言や態度）10%で評価する。

授業科目名： 教育相談の基礎	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 橋本圭子
			担当形態： 単独
科 目	道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教育相談（カウンセリングに関する基礎的な知識を含む。）の理論及び方法		
授業のテーマ及び到達目標			
不登校、いじめをはじめ、近年の教育現場における多様な問題に対して、教育相談が果たす役割が重要になっている。この講義は、教職を目指す者が理解しておくべき教育相談の基礎を学ぶことを目的とする。教育相談の意義と内容について理解を深めること、各種の障害や子どもの不適応に関する基本的知識を身につけること、教師として生徒の諸問題に対処しようとする際の適切な態度の涵養と関係者間での協力や連携の重要性について理解することを目指す。			
授業の概要			
授業の前半では、学校教育相談の基礎事項としてその目的・方法・体制、生徒指導・進路指導との関わりについて、関係諸機関との連携、相談面接に関する基礎、保護者との関係づくりについて学ぶ。後半では、児童・生徒の心の不調や障害及び不適応行動に関する理解と対応、心理アセスメント、カウンセリングの基礎理論、教師のメンタルヘルスについて学ぶ。			
授業計画			
第1回：イントロダクション：教育相談とは何か			
第2回：教育相談の意義、生徒指導との関わり			
第3回：教育相談の体制づくり、教員による教育相談			
第4回：スクールカウンセラーによる教育相談、専門機関との連携			
第5回：教育相談面接の基礎、技法			
第6回：保護者への対応、保護者との関係づくり			
第7回： 青年期の心の理解			
第8回： 生徒理解のための精神医学的基礎			
第9回： 発達障害の理解と対応			
第10回：不登校の理解と対応			
第11回：いじめの理解と対応			
第12回： 非行、その他の生徒の問題行動の理解と対応			
第13回：心理アセスメント			
第14回：カウンセリングの基礎理論			

第15回：教師のメンタルヘルス

最終課題

テキスト

使用しない。講義の概要のプリント資料を配布する。

参考書・参考資料等

文部科学省「生徒指導提要」教育図書，2010年

大芦治「教育相談・学校精神保健の基礎知識」ナカニシヤ出版

井上洋一・清水将之「学校カウンセリング」岩崎学術出版社

齊藤万比古「不登校の児童・思春期精神医学」金剛出版

森田洋司「いじめとは何か 一教室の問題、社会の問題」中公新書

松本俊彦「自傷行為の理解と援助」日本評論社

G. C. デビソン & J. M. ニール「テキスト臨床心理学1～4」誠信書房

学生に対する評価

各授業日の終わりの確認課題（80％）と、15回目の授業終了後に行う最終課題（20％）により評価する。

シラバス：教職実践演習

シラバス：教職実践演習（中・高）		単位数：2単位		担当教員名 教職担当：伊藤 敦美	
科 目	教育実践に関する科目（教職実践演習）				
履修時期	4年次後期	履修履歴の把握	○	学校現場の意見聴取	○
受講者数		15 人			
教員の連携・協力体制					
主として教職に関する科目の担当教員が各々のテーマに関して習得状況を確認する。フィールドワークにおいては、小・中学校の教員、特別支援学校の教員より学校現場における実践課題とその対応について専門的な見地から指導をいただく。また、学校運営及びホームルーム経営・生徒理解に関してはゲストスピーカー（現職教員等）により教育現場における実践に基づいた指導をいただく。教科に関するテーマについては、必要に応じて専門分野の担当者をゲスト講師に招き、個別指導で補完する。					
授業テーマ及び到達目標					
教員として最小限必要な資質能力の全体について確実に身に付けるとともに、その資質能力の全体を明示的に確認することを授業テーマとする。具体的には中学・高等学校教員としての豊かな見識を備え、担当教科（工業科及び理科）についての十分な知識と技術（ICTの活用を含む）及び実践的指導力の基礎を身に付け、教員としての使命感や情熱及び責任感あふれる教員を育成することを目指す。					
教職課程の履修を振り返り教員としての個別課題を設定しそれを解決すること、教育実習における事例研究や生徒理解に関する役割演技を通して教職の意義及び教員の役割の理解を深め、生徒理解及び学級・ホームルーム経営に関する実践的対応力を身に付けること、及び模擬授業を通して教科の指導力（ICTの活用を含む）を高めることを到達目標とする。					
授業の概要					
教職課程の履修及び教育実習における諸経験を振り返ることにより、不足している知識や技能等を確認し、個別課題を設定する。その後、教育実習における事例研究を行うこと及び生徒理解に関する役割演技を行うこと等を通して、教職の意義及び教員の役割、職務内容、生徒に対する責任等についての理解を深めること、及び社会性や対人関係能力（組織の一員としての自覚、保護者や地域の関係者との人間関係の構築等）を高めること、生徒理解及び学級・ホームルーム経営に関する実践的対応力の定着を図ったりする。さらに、模擬授業を行うことを通して、教科に関する実践的指導力の定着を図る。学校現場における実践課題とその対応を学ぶために、小・中学校及び特別支援学校におけるフィールドワークを実施する。					
授業計画					
第1回 学生の教職履修履歴の確認（履修カルテ）及び「教職実践演習」の意義と役割についての理解					
第2回 教育実習の体験報告及び実習校における実習授業・教育方法・生徒理解についてのグループ討議					
第3回 教員としての個別課題の把握と解決のための方策の検討					
第4回 教職の意義及び教員の役割に関する研究①服務・勤務、使命感、責任感、教育的愛情					
第5回 教職の意義及び教員の役割に関する研究②社会性、対人関係能力					
第6回 生徒理解及び学級・ホームルーム経営に関する研究①教育実習校における生徒指導に関する事例検討及び役割					

演技

第7回 生徒理解及び学級・ホームルーム経営に関する研究②教育実習校における学級・ホームルーム経営に関する事例検討及び役割演技

第8回 学校現場における実践的課題と対応②長岡市内小・中学校（授業見学及び質疑）

第9回 学校現場における実践的課題と対応③長岡市立総合支援学校・高等総合支援学校（授業見学及び質疑）

第10回 ゲストスピーカー（現職教員等）による学校運営、学級・ホームルーム経営、生徒理解等に関する講話及びグループ討議

第11回 教科の指導力に関する総合的研究①学習指導案の作成及び検討

第12回 教科の指導力に関する総合的研究②模擬授業の実施（ICTの活用を含む）

第13回 教科の指導力に関する総合的研究③模擬授業の実施（ICTの活用を含む）及び相互評価

第14回 事例研究：教育現場における過去の事例や課題の分析と考察、レポート作成・発表及びグループ討議

第15回 教員としての資質・能力に関する全体的確認

定期試験は実施しない。

テキスト

岩崎保之編著『教育・保育の基礎を学ぶ』国際文献社、2017年。

参考書・参考資料等

文部科学省『高等学校学習指導要領』（平成30年告示）。

文部科学省『中学校学習指導要領』（平成29年告示）。

文部科学省『生徒指導提要』2010年。

教育課程研究会編『「アクティブ・ラーニング」を考える』東洋館出版社、2016年。

吉田辰雄・大森 正 編著『教職入門 教師への道』図書文化社、2019年。

宮崎和夫編著『教職論 教員を志すすべてのひとへ』ミネルヴァ書房、2009年。

そのほか必要な文献は、授業において適宜紹介する。

学生に対する評価

期末レポート（40%）、講義中の課題（20%）、模擬授業（20%）、フィールドワーク等報告書（20%）により評価する。